

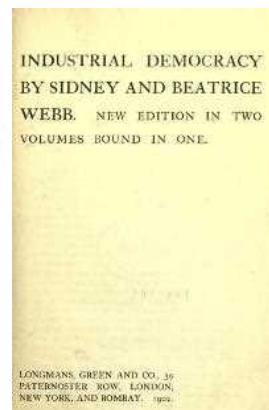
公開シンポジウム

雇用と社会保障における ナショナルミニマム



主催 社会政策関連学会協議会

※ 参加方法・会場場所・シンポジウムの趣旨については裏面をごらんください



日時 2013年9月28日 土曜日 13:30～17:00
場所 東京大学(本郷地区)法文二号館・一大教室

開会挨拶(13:30-13:35): 武川正吾 (東京大学・社会政策関連学会協議会・代表)

I 講演(13:35-15:05)

社会保険の機能強化とナショナルミニマム

土田武史(早稲田大学・社会政策学会)

ナショナルミニマムとしての生活保護

布川日佐史(法政大学・日本社会福祉学会・社会政策学会)

雇用と賃金におけるナショナルミニマム

小越洋之助(國學院大学名誉教授・労務理論学会)

休憩(15:05-15:15)

II 講演(15:15-16:15)

ナショナルミニマムと医療介護

住居広士(県立広島大学・日本社会福祉学会)

ナショナルミニマムのジェンダー視点

神尾真知子(日本大学・ジェンダー法学会)

III 総括討論(16:15-16:55)

司会: 平岡公一(お茶の水女子大学・福祉社会学会)

閉会挨拶: 禹宗杭(埼玉大学・社会政策関連学会協議会・副代表)



参加申込方法

E-mailまたはFaxで、必要事項(氏名, 所属, 連絡先電話番号, E-mailアドレス)をご記入の上, 以下の問い合わせ先担当宛, お申し込みください。

遠藤公嗣 (明治大学経営学部教授)

E-mail: social2008@live.jp Fax: 03-3296-2350

* 定員(200名)となり次第, 締め切りとさせていただきます。

趣旨

二度の政権交代をはさんで, 税と社会保障の一体改革の先行きは不透明なものとなっています。税制では, 1990年代半ばから累進性と財源調達機能が引き下げられ, 2000年代前半には「構造改革」の看板のもとに社会保障の給付削減・負担増が繰り返され, また, 2008年には社会保障国民会議が「社会保障の機能強化」を訴えましたが, 実態は社会保障制度などの再分配をつうじて貧困率が高まるという, OECD諸国では類例を見ない結果となっています。これに対して諸外国では, 財政の健全性を保ちつつ経済を成長させ, 子ども・若者を対象とする多様なサービス給付を強めて, 貧困の削減に成功している例もあります。本シンポジウムで, 2013年8月に, 社会保障制度改革国民会議の報告書が発表されたことも踏まえ, 社会保障をはじめとする社会政策の原点であるナショナルミニマムに立ち返って, 日本の社会政策の現状と展望について考えていきたいと思ひます。

会場



《http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_01_02_j.html》